

京都教区時報

京都教区広報委員会
編集長 村上透磨
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3468
FAX 075-211-4345
kouhou@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～3頁 2016年 教区教会学校研修会

4頁～6頁 2016年 教区中学生広島平和巡礼

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さままでお申込みください。
TEL・FAX 079-431-8601

2016年 司教年頭書簡 御父のように、いつくしみ深く 10・いつくしみの相互関係

先に、「6. あわれみ深い人は幸い（信仰の実践的センス）」について、共に考えましたが、今回は、テーマ「10. いつくしみの相互関係」を取り上げてみたいと思います。テーマとして同じように見えますが、司教はこれを「共同体的センス」として語っています。ですから9月号で考察しました通り、ここでも神の側から、そしてその無条件の愛という観点から、このテーマも見る必要があるように思います。

9月4日、マザー・テレサの列聖式が行われました。ご存知のように、マザー・テレサは、神の慈しみを身をもって、その生涯の証しとすることによって、こんなに早く聖者の位に挙げられました。

しかし思うのです、マザー・テレサは貧しい人への慈しみの業を一方的に示されたのではなく、貧しい人々から、神の慈しみを受け取られたと。このマザー・テレサの貧しい人への感謝と賛美を見落としてはならないと思います。マザー・テレサは、貧しく小さくされた人への愛を伝えるだけでなく、むしろ貧しい人から受けられた、与えるより受ける喜びを味わわれたのだと思います。

列聖式には、彼女の遺徳、受けた愛や恩恵を感謝し讃えるべき12万以上の巡礼者のむれで聖ペトロ広場は一杯にあふれました。

聖ペトロ大聖堂の中央に大肖像画の垂れ幕が下がりますが、その垂れ幕のマザー・テレサのお顔を見て、何となく恥ずかしげに見えました。たぶんマザー・テレサはこう思っておられたと思うのです。「あなた方は、今こうして私を讃えていてくれますが、本当は私があなた方を讃えたいのです。あなた方の中にこそ、小さくなられたイエスが生きておられます。そのイエスに私はひざまずきたいのです。あなた方はこうして、私を讃えに遠くからお越しになりましたが、あなた方の行かれるところは、ここではなく、あなた方の故郷の倒れている貧しい小さなキリストのもと



11
2016



前にも述べたことですが、私たちが人間同士「互いに愛し合う」という時、「神」という視点がふと忘れられ、人道的、道徳的な隣人愛のレベルに留まってしまうおそれがあるように思えます。私たちキリスト者の愛はいつも神の愛から始ま

のです。そこで、小さくなられたキリストにあなた方の愛の手を差しのべて下さい」と。

さて教書(年頭書簡)は「いづくしき深い愛は、人と人との相互関係の中で体験されるもので、一方的な行為として実現されるものではないこと……」。例えば、ボランティアを行う人は援助する相手から予期しない喜びをもらっており、与える人が受ける人になっていると語り、また、思いやり、同じ思い、同じ心、同じ愛(フィリピ2・1〜2)という言葉を使いながら、相互関係を語っています。

ります。神が自分を必要とされ、愛され、ゆるして下さっている。キリストの愛と慈しみが、まず私をとりこにしている。その事実と自覚から始まるのだということです。ですから、これを実行するには、神からの恵みが必要であり「愛の内に祈り求める」必要があるということです。

もう一つ大切にしたいことがあります。それはこの相互愛の根底にいつも「謙虚な心」が潜んでいなければならぬ。教書で引用されているフィリピ2・1〜2に続く3節に「へりくだって、互いに相手を自分より優れたものと思わない」とあります。

あらゆる愛の根底に謙虚さがなければならぬ。私にとって謙虚さは、徳よりも、人間存在の本質、神との関わりの根幹となるものと思っています。謙遜とは「神の前にありのままにあること」、即ち神の前に「無にすぎないこと」、そしてまさにその時こそ神が全てとなられる。ここにこそ神と人、人と人との愛の交わりの始まりと、全てがある。人が神の前にこそ無になり謙虚になって立つとき、そこに神の慈しみと愛と神の命の息吹がゆらぎはじめる……のです。

(村上透磨)

2016年 教会学校研修会

8月27日、京都教区教会学校研修会が行われ、教会学校リーダー44名が、20小教区から参加しました。テーマは「子どもたちに、ぜひ、伝えておきたいこと」で、来年2月に列福される「ユスト高山右近」について、「信仰教育の観点から学ぶ」ことがひとつのコンセプトでした。純心聖母会のシスター木村美由紀を講師としてお招きし、子どもの信仰教育と右近の列福について、教会史を交えてお話しいただきました。

研修会の冒頭、大塚司教から、課題の多い教会学校で奉仕しているリーダーたちへ、感謝と励ましのお言葉をいただきました。そして、子どもの信仰教育において、日本の教会の固有の歩みを、印象づけて伝えることは重要なことなので、右近の列福をチャンスに、子どもたちにぜひ伝えてほしいと話されました。

シスター木村は、信仰教育とは、「(私の) いただいた信仰の恵みを伝えること」で、教会史を信仰教育で扱う時、「先祖からいただいた信仰を伝えること」となる。家庭においても、親から子へ伝えなければならない大切なことがあるが、



信仰もその一つと、申命記4章9節と詩篇78章3節、4節を引用して話し始められました。教会の歴史は、単なる歴史というよりも、信仰の遺産として伝える、日本の教会の歴史を学ぶなかに、神の御業をさがし、その御業を悟らなければならぬ、そして、その悟ったことを子どもたちに伝えなければならないと言われました。

初めに、日本の教会史と高山右近の生涯について、年表を見ながら学びました。ザビエルが蒔いた種がどのように成長したか、ザビエルが日本でやりたかったことを、次代の司祭が受け継いでいったのはとても大事なことで、受け継がれたから現代の教会がある。また、信仰は、他者に伝えなければ信仰ではない（カトリック教会のカテキズム166）。そして、信仰を伝え、繋いでいく中に、いろ



いろな人がいて、そのひとりが高山右近であることを確認しました。

さらに、『ユスト高山右近』いま、降りていく人へ』を読みながら、「人々の中に生きたイエスを学ぶ右近」に思いを馳せ、他者に目を向けること、本当の信仰生活とはなにか？を右近が教えてくれていることを知りました。列福は、過去の記念として祝うのではなく、神がくださった恵みとして受け止めなければならぬ、右近は日本の教会に何を伝えなかったのかを考えなければならぬとシスターは話されました。

信徒発見に始まる再宣教時代、浦上四番崩れ、パリミッシヨンの神父たちのはたらき、とくに、京都と深い関わりのある、ヴィリオン師のことを学んだあと、

「子どものための教会史カリキュラム」について、学びました。

高山右近は、回心によってイエスと出会い、信仰にめざめ、神が自分に託されたことを他者に伝えました。子どもの信仰教育に携わる私たちが、子どもたちに知識を伝えるだけではなく、自分が神からいただいた恵み、神から託されたことを伝えるために、キリスト者としての生き方（霊性）を磨いていくことが大切だということを、再認識しました。

信仰教育委員会

※シスター木村から紹介のあった参考図書

- ◆『まるちれす』長崎教区信仰教育委員会編 ◆『恵みの風に帆をはって』まるちれす研究会 ドンボスコ社 ◆『ガリラヤへ』まるちれす研究会 ドンボスコ社 ◆『キリストの証し人』H・チースリク 聖母文庫 ◆『高山右近史話』H・チースリク 聖母文庫 ◆『キリシタン殉教地をゆく』高木一雄 聖母文庫 ◆『キリシタン大名高山右近』谷真介 パウロ文庫 ◆『ユスト高山右近』いま、降りていく人へ』古巣馨 ドンボスコ社

中学生広島平和巡礼 感想文



広島巡礼に参加して

唐崎教会 1年 池田 虹子

私は、初めて広島巡礼に参加しました。

被爆者証言を聞いた時、話をしてくださった方はとても悲しそうな顔をしていました。平和公園慰霊碑巡りをした時も泣いている方がおられました。こういう人達を見て、戦争は人を悲しませるものだと思えました。私たちがぶ



つうに歩いていた道に、もしかしたら原爆の時に人がたおれていたのかもしれない、と思うとても恐ろしかったです。今、私たちはぶつうに生活

をしています。毎日安心して笑顔で暮らしています。でも、そのあたりまえのことをあたりまえにできる今の時代を、これから続けていきたいです。

この広島巡礼でいろんな事を学びました。この学んだことを私はどうしていくのかを考えました。学んだことをこれからいろんな人に伝えていきたいと思いました。

広島巡礼であったこと学んだことを、これからも絶対に忘れずに平和がずっと続くことを願っています。そして、これからも戦争や原爆で亡くなった方々にお祈りをしっかりとしていけたらいいなと思います。

広島巡礼を終えて

宮津教会 3年 後藤仙太郎

広島巡礼の中で平和について学びました。被爆証言では、教科書では学ぶことの出来ない、被爆者の気持ち、生活ギリギリの苦しさ、原子爆弾でやけどを負って、痛く、苦しい思いをした人達のことを細かく教えてくれた朴（パク）さんに感謝したし、恐くて、絶対戦争だけはしたラダメだと思いました。



平和行進のとき、マイクを持った人が僕たちに向かって、「なんで行進するんですか」と言っていたので、「平和のためやろ」とボソッと言ったのですが、そこで僕は、「平和って何なんやろう」と思いました。戦後の日本は、平和だと色々な人が言うけれど、平和というものの意味が分からなくなりました。次の日の分かち合いで自分なりの平和について考えましたが、本当にこれが平和なのかと、ますます分からなくなりました。でも逆に、これが平和で、これは平和ではないというふうに、正解はないということにも気付きました。

今回、平和について考えたのですが、ただ考えるだけではダメだと思います。原爆ドームの近くで、目の見えないおばあちゃんや他の人に支えられながら祈りしている姿を見ました。

自分が見えないのに、他の人のことを思うことが出来るこのおばあちゃん

すごいなと思ったし、感動しました。僕もあのおばあちゃんみたいに、人のことを考える人になりたいと思いました。

ヒロシマを訪ねて

丹後教会 3年 稲垣 江梨

広島に原爆が落とされたことは、学校ですでに習っていたので知っていました。でも、実際に広島地を見て、学校では習わない貴重な体験ができました。

被爆者証言で一番心に残ったのは、証言された方の「あんな形で死にたくない」「死なせたたくない、死んでほしくない」という思いで終戦を迎えたという言葉です。話されたパクさんは、小学生の時に創氏改名をし、以来広島で戦時中を生き抜いてこられた方です。周りの人が戦禍にひどい様子で亡くなっていく。どうする事も出来なかったと言います。痛みや苦しみが強くて、今までの幸せだった頃の出来事を思い出さなく失われた命もあったでしょう。自分が生きたその「意志」を遺さないで死ぬのは嫌だったかなと思いました。

平和祈念資料館では、展示されている遺品全てが、どこかしら黒くなっています。

した。焦げた衣服、はいていた女の子の足跡が黒く焼き付いた下駄などです。それとは別に、とりわけインパクトが大きかったのが、原爆の熱線によって大火傷を負った人たちのろう人形です。腕や手の皮膚が垂れ下がっていました。正直に言うとうと、人間ではないみたいでした。こんな状態の人が戦火の町を徘徊しているのです。背筋が寒くなりました。

平和の為に今何ができるのか。祈りをささげ、この三日間体験した事をいつまでも覚えていえることが、まず平和につながる第一歩だと思います。

貴重な経験ができた巡礼

八幡教会 2年 梅澤 祥子

印象的だったのは、被爆者の方の証言でした。年々、話を聞くことができる機会が減ってきてしまっている中で、証言を聞くという貴重な体験ができて良かったです。話してくださったパクさんは、「たくさんさんの命、悲しみの上に今の平和がある」と話されていました。パクさんが話してくださったことは、現実にあったとは思えないような内容でした。今の広島は復興しているから「原爆が落ちた

後は広島はなくなっていた」と話されても、想像することができませんでした。町の人々の様子も「言葉にするのがかわいそうな様子だった」と、思い出すのがとてもつらいものなのだということがとてもよく分かりました。私達には、実際に戦争を体験したことがないので、どのような様子だったかということや、その時の恐怖感を同じように感じることは、想像するだけではできないけれど、少しでもわかろうとする努力はできると思います。私は、話を聞いていて、戦争になつたら人はどんなに怖いことも行ってしまうし、人間のすることでは絶対ないと思いました。この貴重な体験を大切にしたいです。

分かち合いでは「平和」について考え

ました。今、

平和と聞いたら戦争がない世界を一番に思い浮かべますが、イエス様がおっしゃった「平和」は自分が心を開いて相手と接すると





私は今年5月沖縄県へ修学旅行に行きました。そこは太平洋戦争のとき、日本で唯一地上戦がおこなわれた場所です。それについての資料館へ行くと広島と同様に被害がとても大きかったことに驚きました。でも沖縄と広島に

二つの平和学習を通して

河原町教会 3年 前川沙喜子

いうことだという考えにまとまりました。今、平和や戦争についての話し合いが新聞などで紹介されています。私は今までは、あまり関心がありませんでしたが、今回の巡礼に参加して、日本の平和を守っている憲法などについても、調べて知識を身につけて、一つの見方ではなく、様々な見方をできる人になりたいと思います。

は大きな差があることに気づかされました。それは、核兵器を使ったか使わなかったかだけではなく、身の守り方など色々な点がありました。

核兵器は一瞬で街を壊します。でも人の手による戦いは一瞬ではなくゆっくりとじわじわ壊していきます。事実、核兵器の方が被害は大きいと思います。けど平和かどうかなどは大ききで決めれるものではないと思います。戦争は平和ではないです。けれど人間が生きる以上、戦争や争いはなくなりません。それでも人は争いがないことをのぞみます。でも私はそんな日は来ないと思います。平和になるために行動することは無駄ではないと思います。行動することで助かる誰かがいると思うと、それはすばらしいと思います。

私は将来、難民の人々を助けられる仕事につきたいと思っています。私の一人の力で何人もの命が助かると思うとすごいことだなと思います。けれど、平和になってほしいと動くのではなく、自分自身が考えるものになればと思います。身近なところから平和をといいますが、私は一步ふみ出して困っている人を助けたいと思います。

2016年

「病者・高齢者訪問講座」

第3回『死者のための祈り』

― 復活の希望の中で ―



講師 一場 修師

病者・高齢者訪問の際、お葬式の話になることや、相談を受けることが、多々あると思います。その時に、私たちひとり一人が小教区共同体として、教会における「葬儀」とは何かということを正確に理解したうえで、相手の人に伝えられることが大切ではないでしょうか。最近では特に、家族・親族関係者のみで執り行う家族葬、また特定の宗教に依らない、葬儀ホールでの葬儀を行う傾向がみられます。このような中で、教会共同体として葬儀を行うことの意味を、私たちはどのように伝えていくことができるでしょうか。このような問いを受けて、今回の講座では教会における「葬儀」につ

いて、とりわけ死者の祈りについて、一場修師に話していただきました。

一場師は、カトリック儀式書『葬儀』日本カトリック典礼委員会(編)を基に、「葬儀」における死者のための祈りについてお話しくださいました。前半では教会における葬儀の意味、後半では、前半で説明した葬儀の意味について、式文を通して確認しました。

教会における「葬儀」のプロセスの中で、一場師が強調したのは、キリストの死と復活、過ぎ越しについて、すなわち共同体でミサを捧げることの意味と重要性についてでした。ミサを捧げるとは、コリントの信徒への手紙の「主の晩餐の制定」で言われているように「主の死を告げ知らせること」、私たちの救いの源はキリストの十字架上の死です(Ⅰコリント11・23-26)。この主の晩餐こそ、私たちキリスト者が、葬儀や死の意味を考える原点であるとして、一場師は言います。私たちは、ミサを捧げるたびに主の死を思い起こしています。そして、私たちの救

いは主の死から来ていること、そして死があるからこそ、復活があるのだということです。私たちはこの主の死と復活を信じ、そこに結ばれることによって、死からのちへと移っていくのです。

このことから葬儀とは、私たちの復活信仰を表明する場であると言えます。私たちは葬儀を通して、キリストの死と復活に死者がつながっていくことを信じ、感謝を捧げ、賛美を捧げています。私たちは葬儀を通して、救いの完成に向けて歩めるように祈ることができます。

キリストの死と復活に、帰天された方が結ばれるよう祈ること、さらに葬儀に参列している私たちひとり一人が、自身の復活信仰、救いの希望を新たにし、祈る場でもあると一場師は言います。

私たちは葬儀を通して、天上の国の死者と共に復活信仰を新たにし、救いの道を歩むために祈ることができ、ということが強く心に響いた講座でした。

福音宣教企画室

11月のお知らせ

諸 団 体

望洋庵／Tel.075(366)8337

Eメール bouyouan.seinen@gmail.com

青年のための聖書入門講座

日 時：10日⑥ 19:00

テーマ：講座の次の主日の福音箇所

対 象：青年男女(初めての方歓迎)

参加費：200円(食事代含む)(申込不要)

はじめての黙想会

日 時：11日⑤ 10:00～16:30(15:30ミサ)

参加費：1,000円(食事代含む)

(電話で申し込んでください)

月イチ黙想会

日 時：26日① 14:00～17:00

対 象：青年男女(初めての方歓迎)

参加費：200円(申込不要)

京都カトリック混声合唱団

練 習：13日⑥ 14:00/26日① 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：10日⑥ 10:00/24日⑥ 10:00

カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：10日⑥ 13:00

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイAスポーツプラス

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「小さな気づきを大切に」

出演は阿南 孝也氏(洛星中学高等学校 校長)

ラジオ(KBS京都) ①～⑤ 朝5:55

⑥ 朝5:15

11月のテーマ「旅立ち」

京都南部ウオーカソン

日 時：3日⑥ 10:00～14:30

受 付：8:45～9:30 河原町教会

コース：河原町教会から鴨川沿い往復

寄付先：東日本大震災被災地、

ムリンディ・ジャパン・プロジェクト支援、

熊本大震災被災者への支援

※ 2017年1月号の原稿締切日は11月23日⑥です。

大塚司教の

11月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日㊦ 10:00 長岡カトリック幼稚園
創立50周年記念講演
- 4日金 10:30 広報委員会
- 5日土 10:00 ヌヴェール愛徳修道会
誓願式ミサ(九条)
- 6日日 14:00 衣笠墓苑 物故者追悼ミサ
(衣笠)
- 7日月 14:00 司教顧問会
17:00 教区司祭追悼ミサ(河原町)
- 8日火 10:00 福音宣教企画室 会議
15:00 青少年委員会
- 10日水 17:00 アジアカトリック医師会ミサ
(京都ブライトンホテル)

- 11日金 10:00 中央協 常任司教委員会
- 12日土 YES2016 講演会(西院教会)
- 13日日 10:30 いつくしみの特別聖年
教区閉門ミサ(河原町)
- 14日月-17日水 第22回 日韓司教交流会
(韓国)
- 20日日 14:00 大和八木教会 英語ミサ
- 24日水 10:30 司祭・司牧者全体集会
(河原町)
- 15:30 司祭評議会
- 25日金 11:00 中央協 列聖推進委員会
- 27日日 11:00 彦根教会 ポルトガル語ミサ
- 28日月 15:00 ステラコーポレーション
巡礼ミサ(河原町)
- 18:00 教区宣教司牧評議会
書記局会議
- 29日火 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会

11月のお知らせ

教 区

- 聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊦㊦
- 聖書講座「神の正義と神のいつくしみ」
日 時：9日㊦ 19:00 10日㊦ 10:30
テーマ：イエスの派遣
講 師：北村 善朗師
日 時：30日㊦ 19:00 12月1日㊦ 10:30
テーマ：イエス・キリスト、
父のいつくしみのみ顔
講 師：鈴木 信一師(聖パウロ会)
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
- よく分かる聖書の学び(ヨハネ福音書を読む)
日 時：16日㊦ 10:30
講 師：北村 善朗師／参加費：300円
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
- 福音宣教企画室／Tel.075(229)6800
- 信仰— 家庭でどう伝える？
第2回「日常生活の中で子どもに伝える」
日 時：19日土 14:00
講 師：古本 みさ牧師(日本聖公会)
会 場：カトリック会館6階
受講費：300円

修 道 会

- 男子カルメル修道会(宇治修道院)
Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457
- 三位一体のエリザベト列聖記念ミサ
司式・講話：松田 浩一師
日 時：5日土 10:00～11:40
社会人のための霊的同伴(松田 浩一師)
日 時：11日金 20:00～12日土 15:00
参加費：6,500円
- 水曜黙想(松田 浩一師)
日 時：16日㊦ 10:00～16:00
テーマ：いつくしみの御母、聖マリア
参加費：3,000円
- English Retreat(シスター・ロサ)
日 時：26日土 10:00～16:00
参加費：3,000円
- ノートルダム教育修道女会(唐崎修道院)
女子青年黙想会<神のいつくしみを生きる>
日 時：12日土 15:00～13日日 15:30
テーマ：絶望と希望
指 導：山内 十束師(御受難会)
対 象：独身女子青年信徒／費 用：2,500円
締切り：11月6日日(事前申込要)Sr. 桂川
申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804